

山鹿市お店応援商品券
アンケート事業報告書(概要版)

令和5年5月15日
山鹿市商品券事業実行委員会

1 商品券事業の概要

山鹿商工会議所と山鹿市商工会で組織する山鹿市商品券事業実行委員会では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている地域経済の回復を支援する施策として、山鹿市の協力を受け、「山鹿市お店応援商品券事業(以下「お店応援券事業」という)」を実施した。この商品券は、令和2年7月から販売した「脱コロナプレミアム商品券事業」から、令和3年度に実施した「第3弾脱コロナプレミアム商品券事業」まで3回実施した商品券事業に続くもので、これまでの商品券事業の利用状況や、事業者及び利用者アンケートに基づき、発行額面や発行数、プレミアム率等を見直したものとなった。また、「お店応援券事業」に続いて「山鹿の未来を担う子ども応援券事業(以下「子ども応援券事業」という)」も実施され、令和4年度中の商品券事業の発行額面総額は約10億円と過去最大規模となった。また、両商品券を使用できる登録事業者数も607店舗となり、これも過去最多となっている。その概要は以下のとおりである。

●これまでの商品券事業実施状況					
	令和2年度		令和3年度	令和4年度	
	脱コロナ商品券事業			お店応援券事業	子ども応援券事業(参考)
	第1弾	第2弾	第3弾		
プレミアム率	30%	50%	50%	40%	
発行額面	260,000,000	716,400,000	750,000,000	840,000,000	222,000,000
発行冊数	20,000	48,000	50,000	60,000	制作冊数7,400
申込冊数	18,000	70,000	71,220	64,215	配布冊数7,322
販売冊数	20,000	47,397	49,548	58,785	
購入制限	1人2冊	(1人3冊) 1人2冊に減冊	(1人3冊) 一世帯4冊以上の申込みに対し64.9%の減冊	(1人3冊) 一世帯の申込みに対し84%の減冊	18歳までの子ども一人当たり3万円分の商品券を配布
換金率	98.50%	99.60%	99.70%	99.59%	
登録事業者数	377	482	510	607	

2 - (1) 事業者アンケート調査概要

①調査目的 事業に参加した事業者の視点から、山鹿市において令和4年度に実施した商品券事業の効果や評価について検証するために、事業者アンケートを実施。なお、アンケートの対象は原則「お店応援券事業」としたが、回答に際して区分ができない場合は「子ども応援券事業」も含めて回答することも可とした。

②調査対象 お店応援商品券事業へ参加した全事業者607店舗

③調査期間 2023年3月16日(木)～2023年3月31日(金)

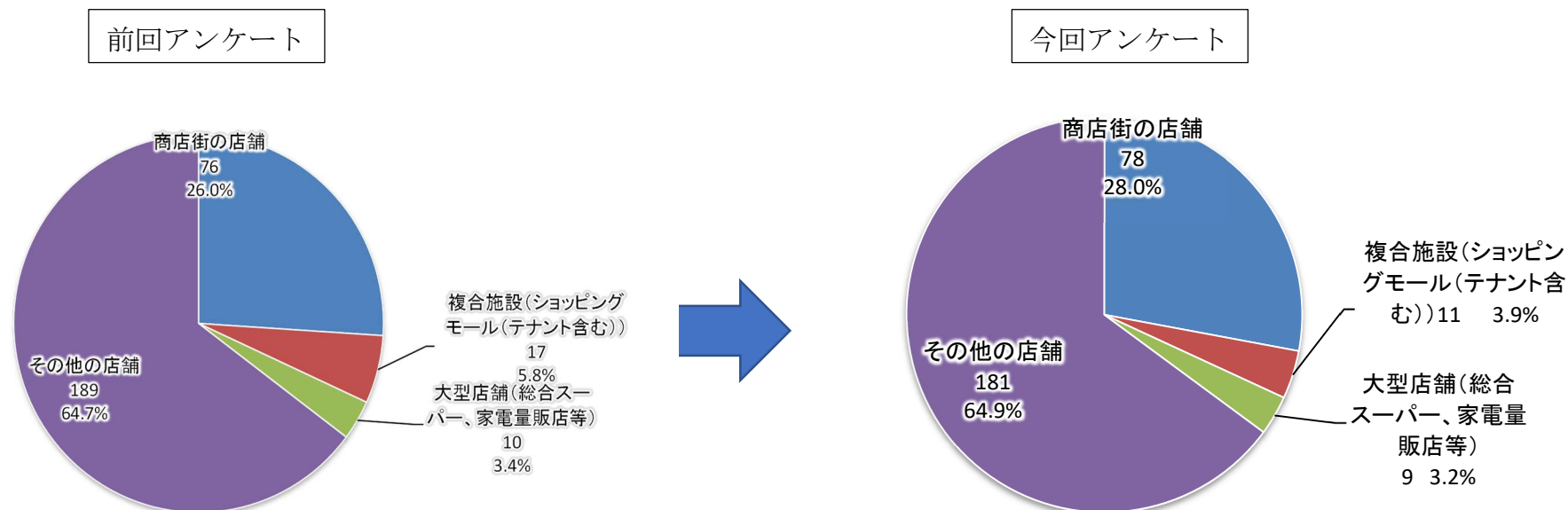
③調査方法 郵送による発送・回収

④有効回答数 280件(回収率46.1%)

2 - (2) 店舗形態

参加事業者の店舗形態についてみると、「商店街の店舗」が 28.0%、「複合施設（ショッピングモール（テナント含む）」が 3.9%、「大型店舗（総合スーパー、家電量販店等）」が 3.2%となっており、概ね店舗形態の構成比率は前回のアンケートと変化していない。前回の商品券事業より登録店舗が増加している為、「複合施設」や「大型店舗」の割合が減少していると思われる。

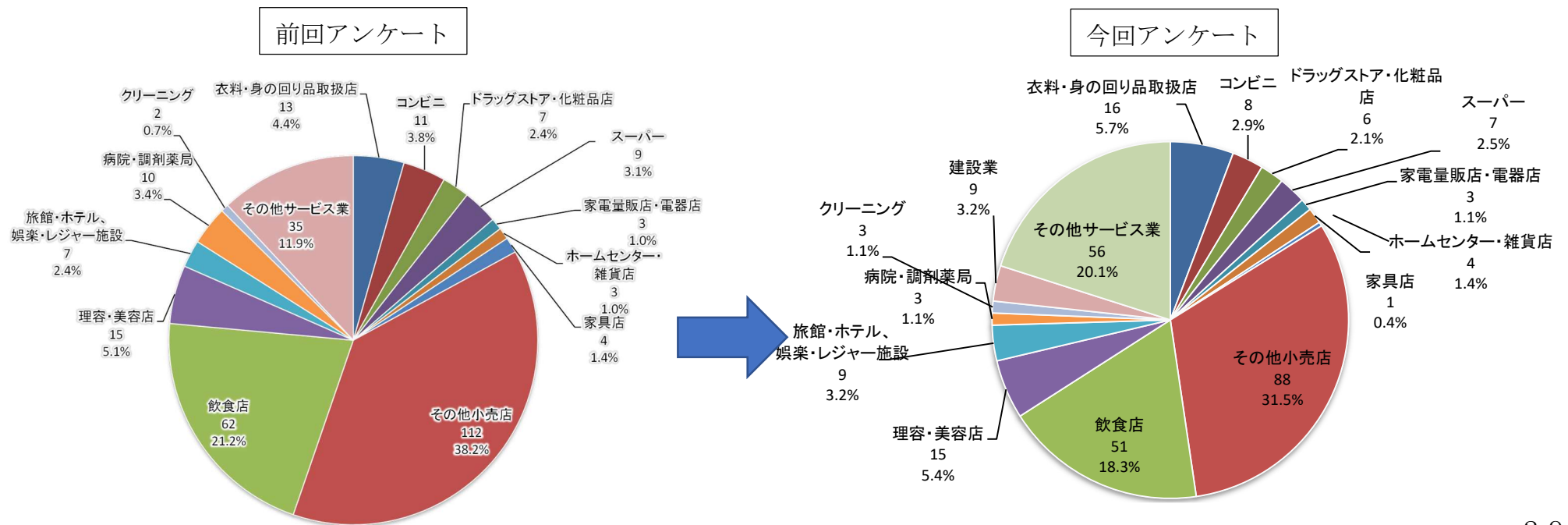
問1 店舗の形態はどのようなものか。(1つに○)



2 - (3) 店舗種別

小売業の店舗では「衣料・身の回り品取扱店」が5.7%、「コンビニ」が2.9%、「ドラッグストア・化粧品店」が2.1%となっている。小売業全ての割合は全体の47.6%となっている。サービス業の店舗では、「飲食店」が18.3%、「理容・美容店」が5.4%となっている。新たな種別として「建設業」3.2%が加わっている。

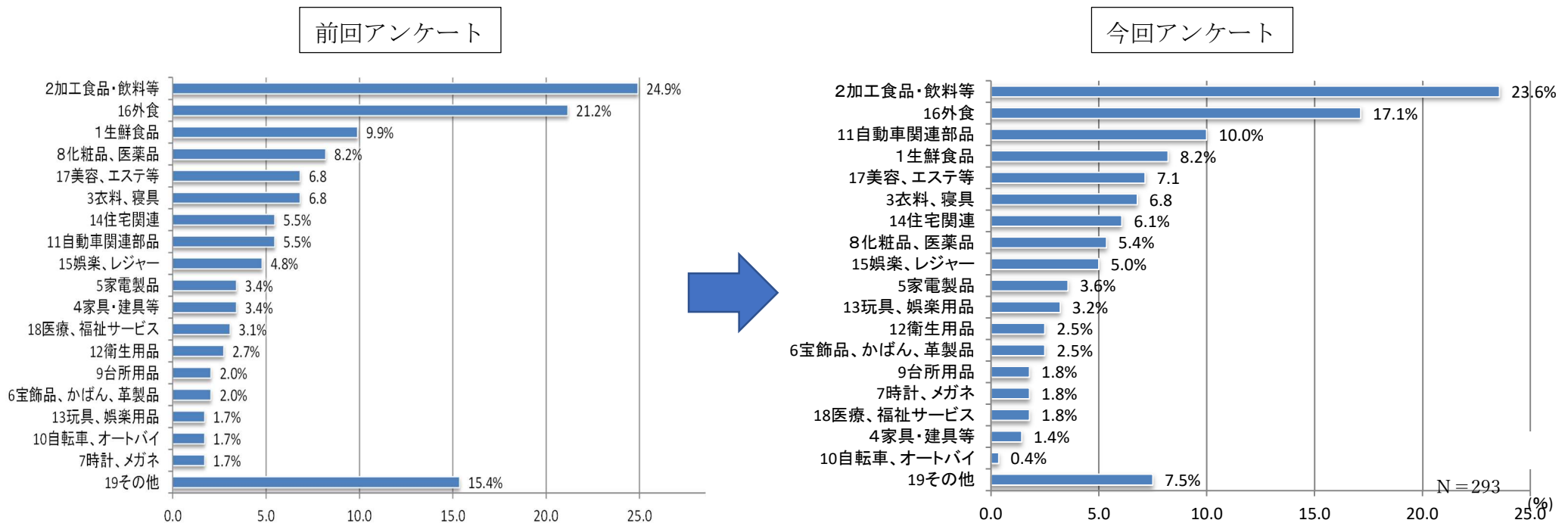
問2 店舗の種別は、次のどのようなものか。(1つに○)



2 - (4) よく商品券が使用された商品・サービス

店舗で、よく商品券が使用された商品・サービスをみると、「加工食品、飲料等」が最も高く23.6%、次いで「外食」の17.1%、「自動車関連部品」の10.0%となっている。前回との比較から、燃料代の高騰により商品券をガソリンや車検といった「自動車関連部品」での利用が増加したと思われる。

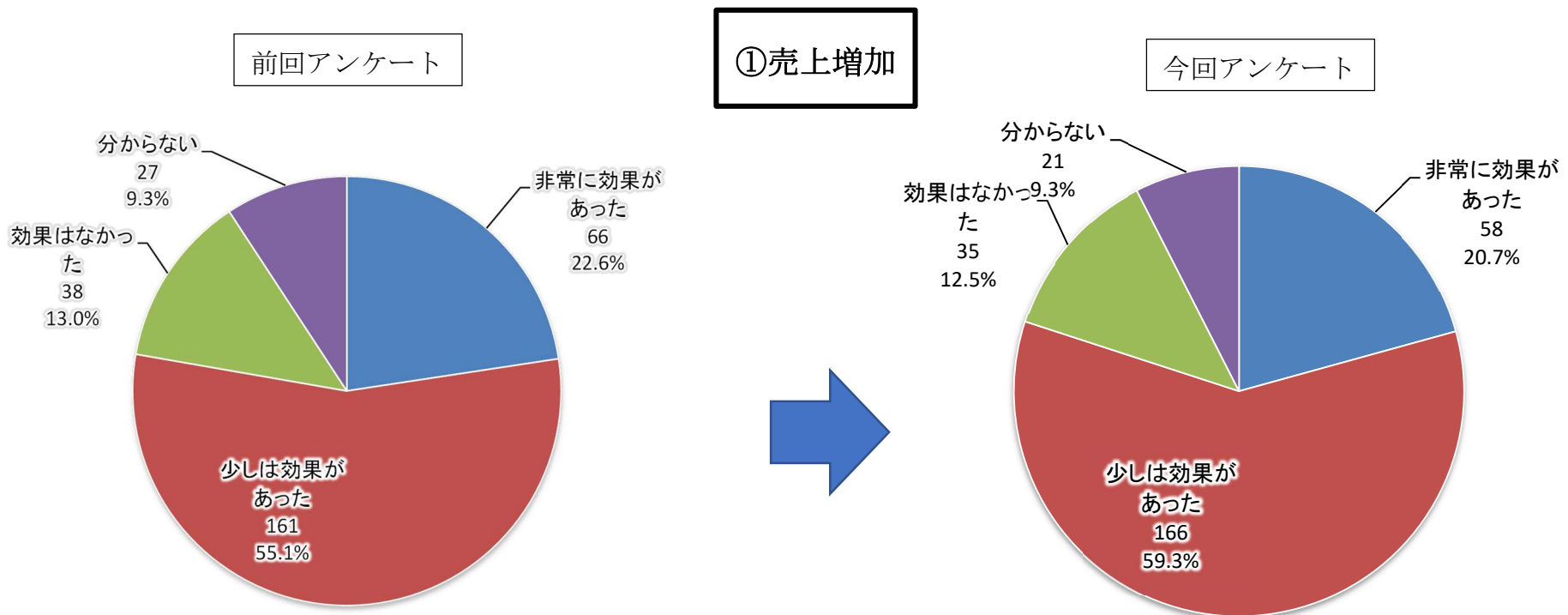
問3 店舗で、よく商品券が使用された商品・サービスはどのようなものか。(上位2つまで○)



2 - (5) 商品券事業の効果

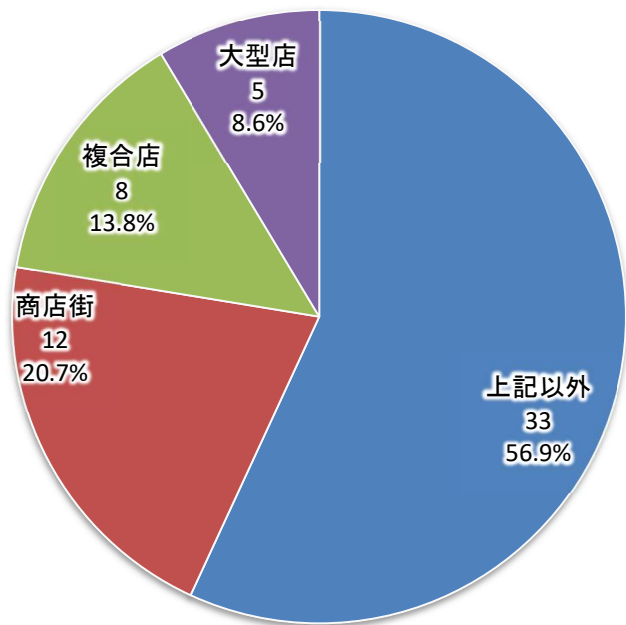
「お店応援商品券事業」による店舗の売上増加の効果について、「非常に効果があった」が 20.7%、「少しは効果があった」が 59.3%となっており、“効果があった（「非常に効果があった」「少しは効果があった」の合計、以下同様）”と回答した事業者は 80.0%となり、前回の 77.7%と比べて 2.3%微増している。

問4 今回の商品券事業実施により、店舗でどのような効果があったか。（各1つに○）

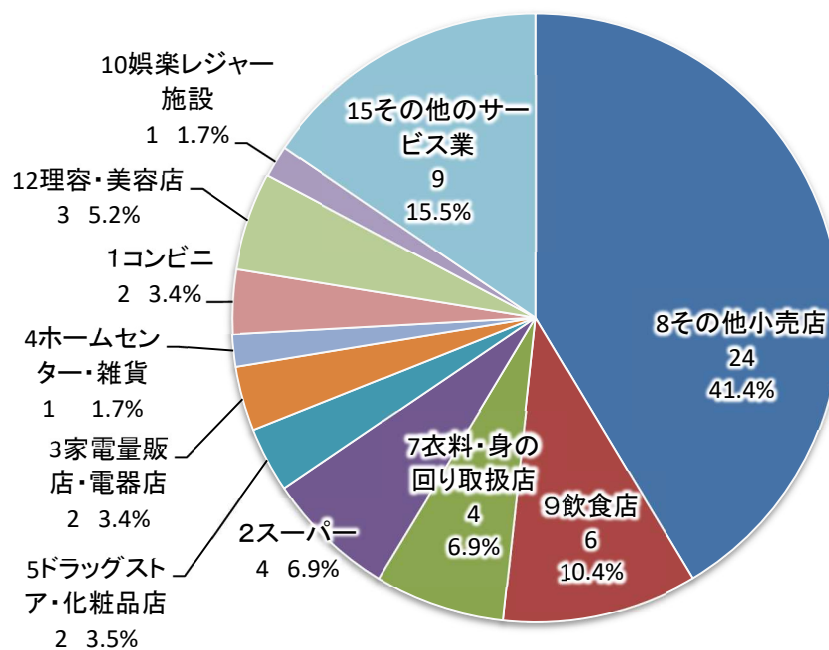


売上増加の効果について、「非常に効果があった」と回答した店舗の形態と種別は、おおむね各形態及び種別に分散していたが、「非常に効果があった」との回答率が高いのは大型店舗(10店舗中5店舗)や複合店(11店舗中8店舗)であった。

店舗の形態

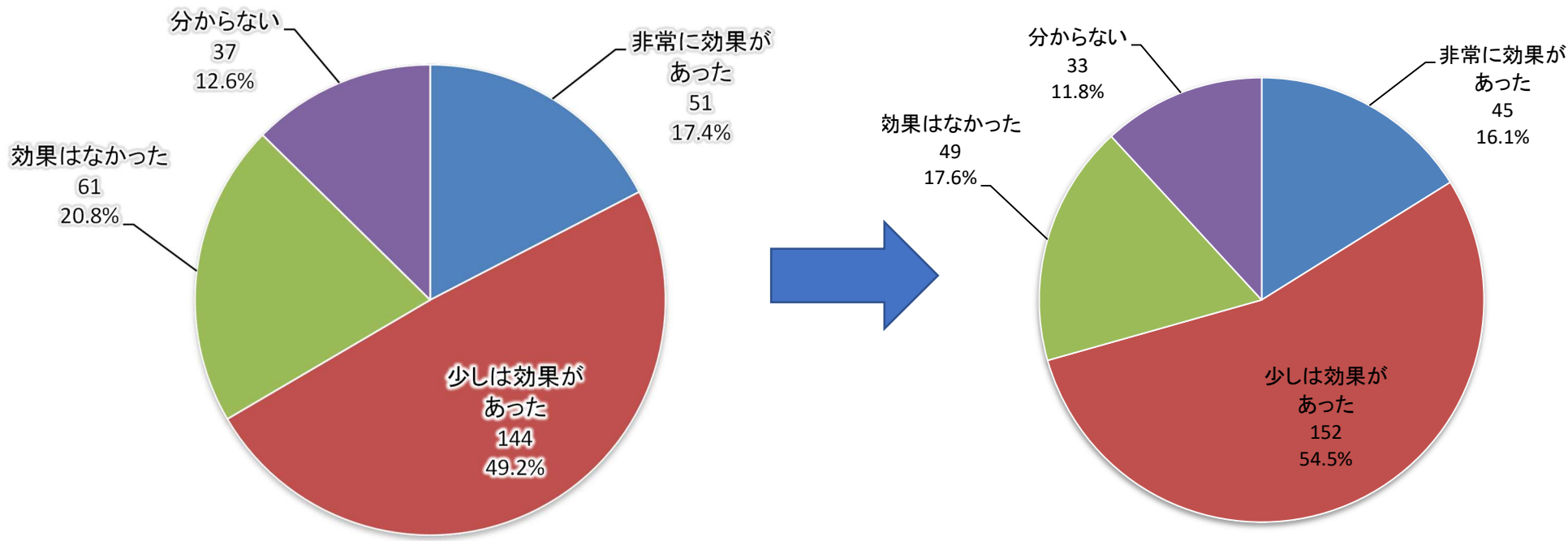


店舗の種別

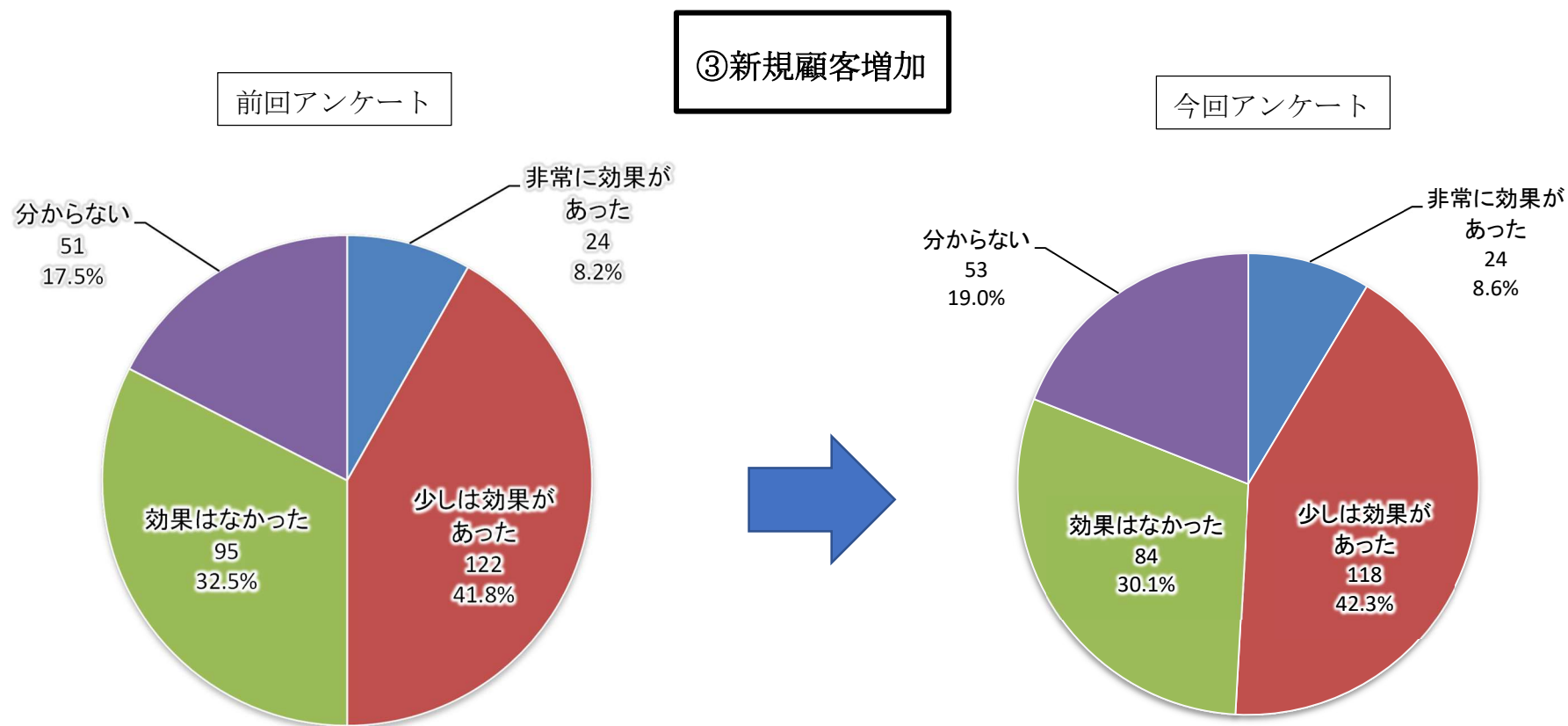


店舗の来店者増加の効果については、「非常に効果があった」が16.1%、「少しは効果があった」が54.5%となっており、“効果があった”事業者は70.6%となり、前回と比べて4.0%上昇している。

前回アンケート **②来店者増加** 今回アンケート



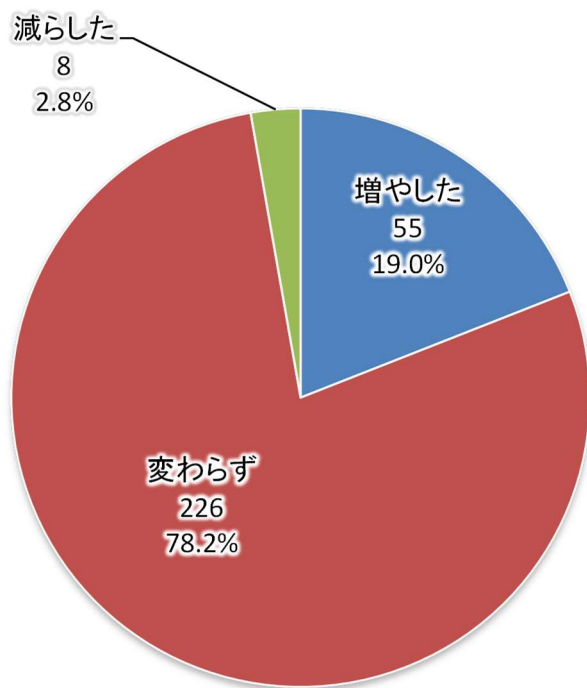
新規顧客の増加の効果については、「非常に効果があった」が8.6%、「少しは効果があった」が42.3%となっており、「効果があった」事業者は50.9%となり、前回と比べて0.9%上昇している。



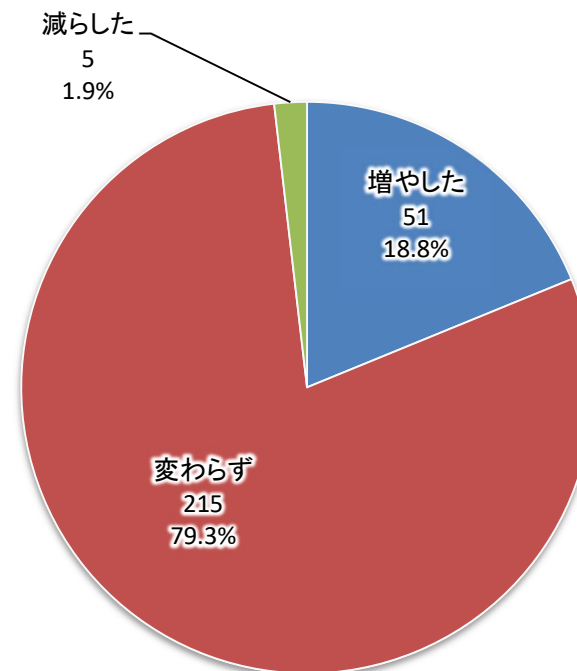
仕入の増加の効果については、「増やした」が18.8%、「変わらず」が79.3%となっており、前回と比べて「増やした」割合が0.2%下降している。

④仕入の増加

前回アンケート



今回アンケート

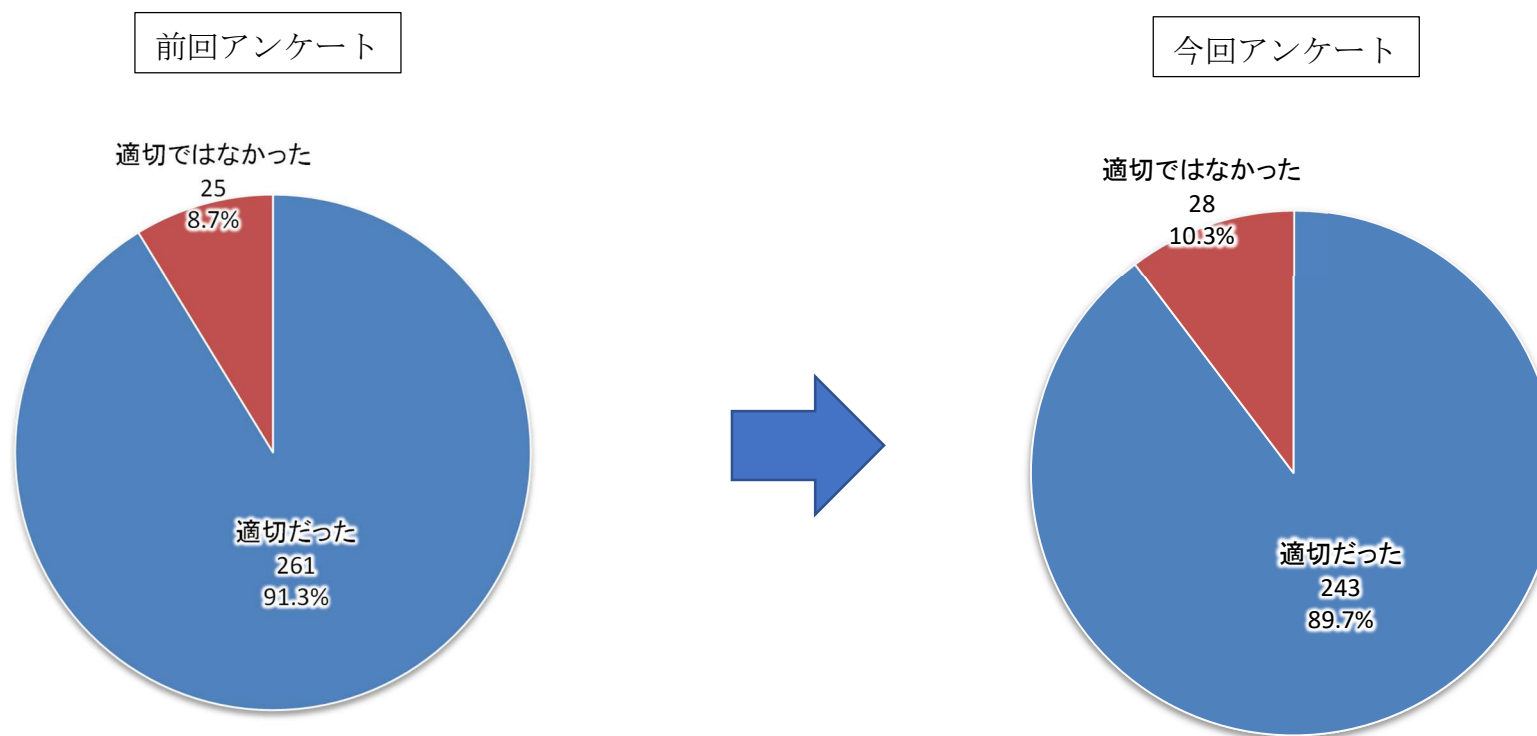


2 - (6) 商品券綴における個店券の枚数

商品券綴(14枚)における個店券の枚数(6枚)について、「適切だった」の割合が89.7%となった。

個店券の枚数が「適切でなかった」理由として、一部に共通券のみを希望する意見があったものの、「個店券の割合増加を望む」という回答が多かった。また、「大型店の区分が分かりにくい」という回答もみられた。

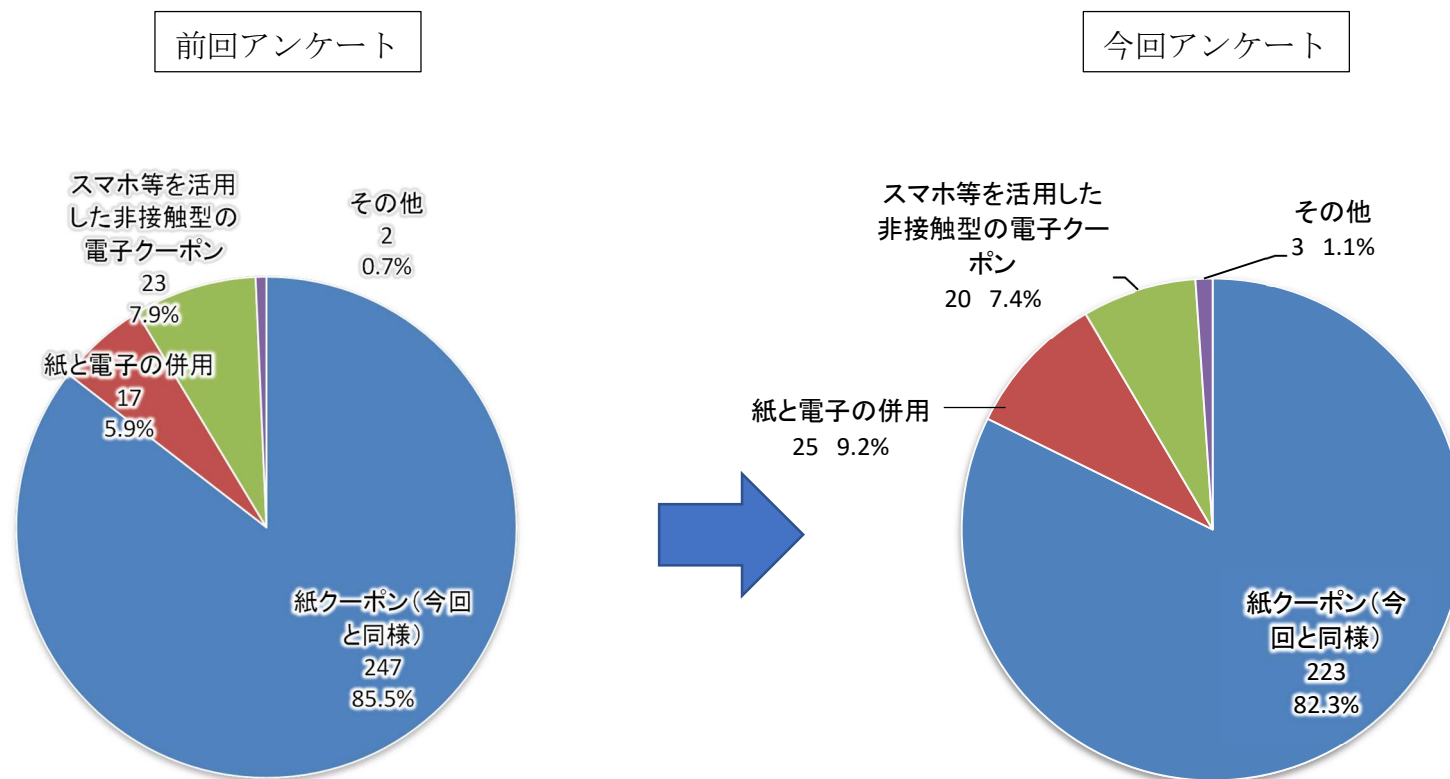
問5 地域の小規模店舗を支援するために設定した、大型店舗以外でのみ使用できる個店券の枚数は適切だったか。(1つに○)



2 - (7) 商品券の発行形態

店舗にとってよりよいと思われる商品券の発行形態については、「紙クーポン（今回と同様）」の割合が82.3%と最も高かった。「電子クーポン」については「併用」と合わせて16.6%と、前回の2.8%を上回った。

問6 商品券の発行形態について、店舗にとってよりよいと思われるもの。(1つに○)

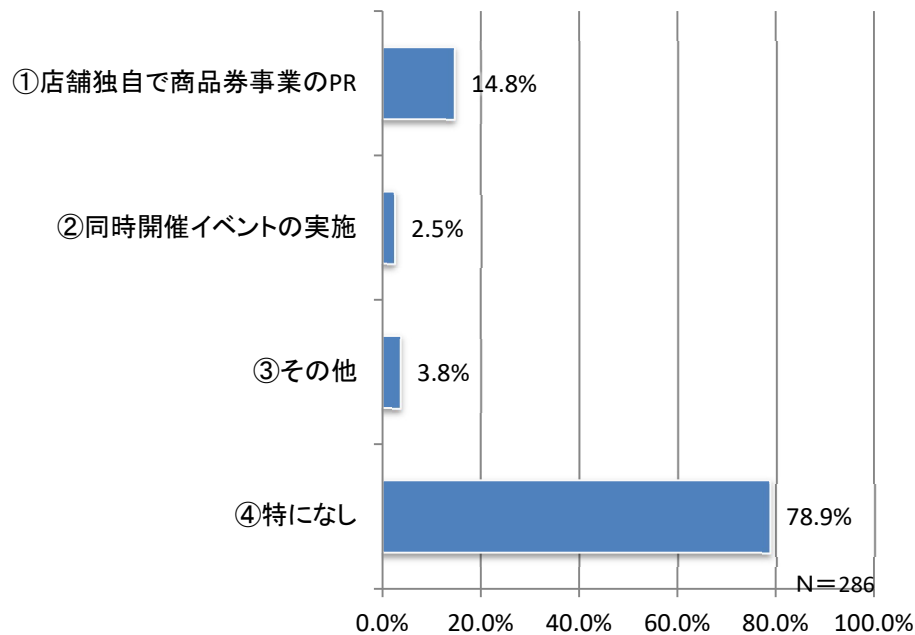


2 - (8) 商品券に関して店舗で実施した取り組み

商品券に関して、送付したポスターやのぼりの設置以外に各店舗で実施した取り組みとして、「店舗独自で商品券事業のPR」が14.8%、「同時開催イベントの実施」が2.5%となった。

具体的な取り組みとして、「SNSの活用」や「DMの発送」などがあった。

問7 商品券に関して、送付したポスターやのぼりの設置以外に店舗で実施した取り組みはどのようなものか。（あてはまるもの全てに○）



①店舗独自で商品券事業のPR

- ・SNSの活用
- ・顧客へのDMの発送
- ・来店客への口頭での説明
- ・チラシやPOPの作成
- ・一品サービス
- ・ラジオ出演時にPR

②同時開催イベントの実施

- ・1000円のセットメニューを充実
- ・特売、キャンペーンを同時開催
- ・試食用品の配布

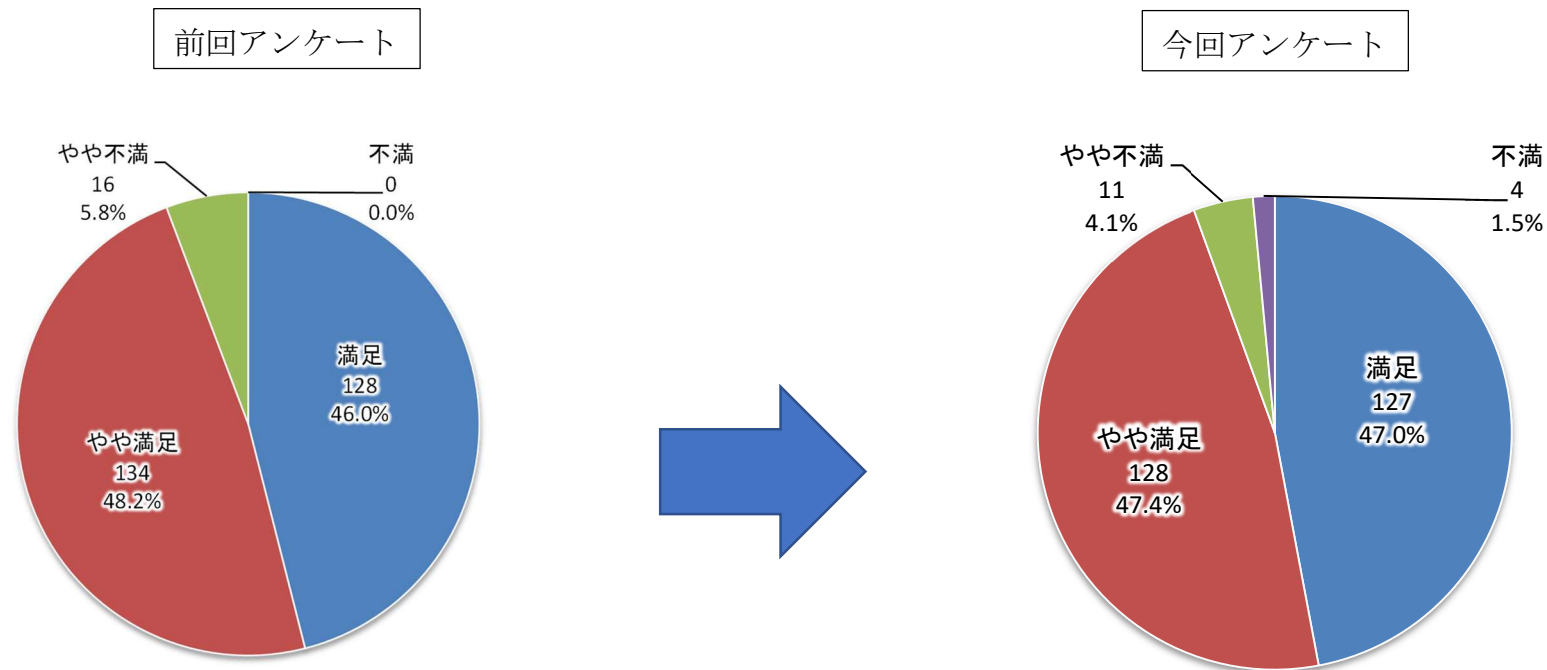
③その他

- ・商品券の拡大コピーを掲示
- ・声掛けや電話での説明

2 - (9) 商品券事業に対する満足度

商品券事業に対する満足度に関して、「満足」が47.0%、「やや満足」が47.4%となっており、94.4%は“満足（「満足」と「やや満足の合計」）”との回答となり、前回から0.2%上昇している。

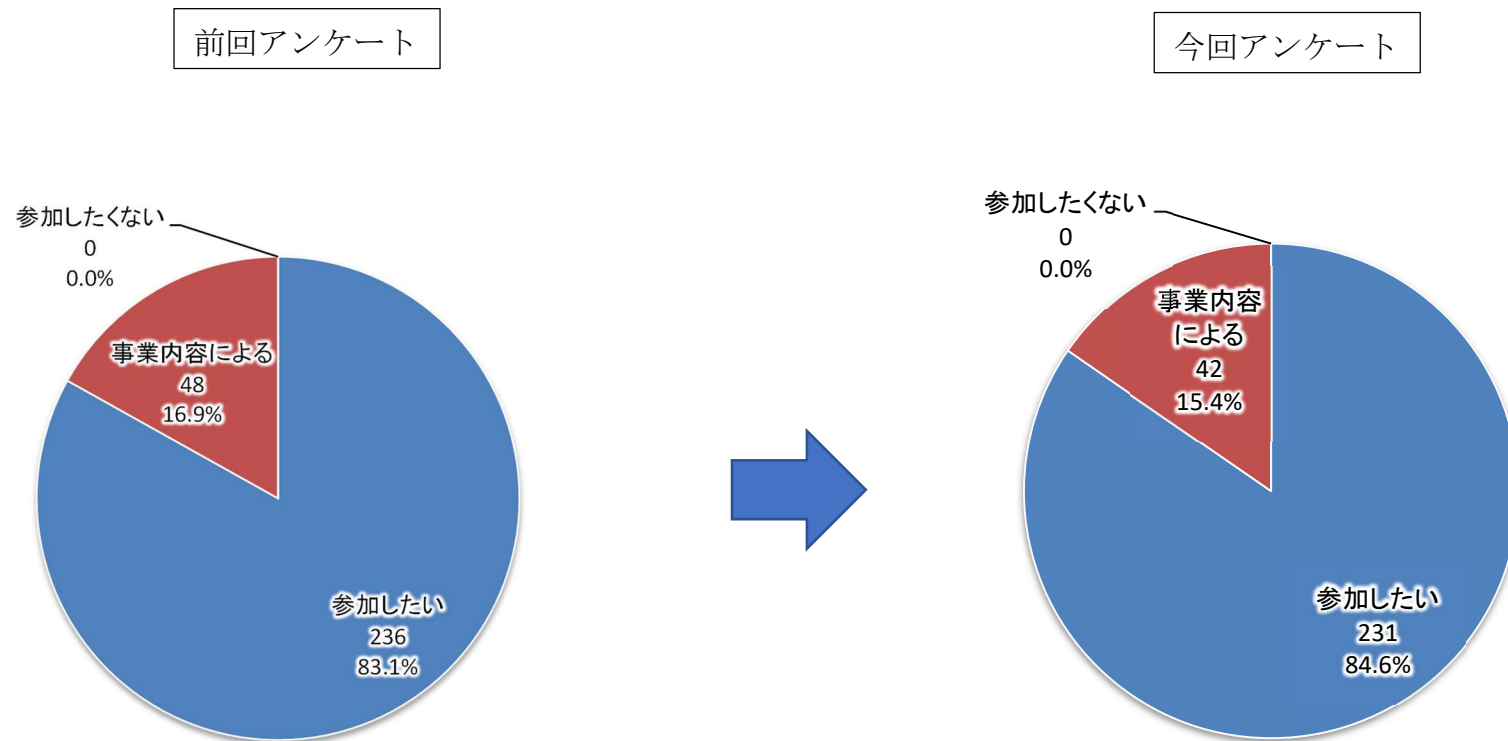
問8 今回の商品券事業に対する満足度はどのようなものか。(1つに○)



2 - (10) 今後の商品券事業への参加意向

今後、同様の商品券事業を実施した場合、事業に参加したいと思うかについて、「参加したい」が 84.6%、「事業内容による」が 15.4%と、前回同様 100%の回答者が“参加の意向”を示した。

問9 今後、同様の商品券事業を実施した場合、事業に参加したいと思うか。(1つに○)



3 - (1) 利用者アンケート調査概要

①調査目的 事業を利用した市民の視点から、山鹿市において令和4年度に実施した商品券事業の効果や評価について検証するために、利用者アンケートを実施。なお、アンケートの対象は原則「お店応援券事業」としたが、回答に際して区分ができない場合は「子ども応援券事業」も含めて回答することも可とした。

②調査対象 商品券を購入した市民のうち総計 2000 人を、山鹿、鹿北、菊鹿、鹿本、鹿央の 5 地域毎の利用者数に応じて無作為に抽出した

③調査期間 2023年3月16日(木)～2023年3月31日(金)

④調査方法 郵送による発送・回収

【地域別の配布数と有効回答数・回収率】

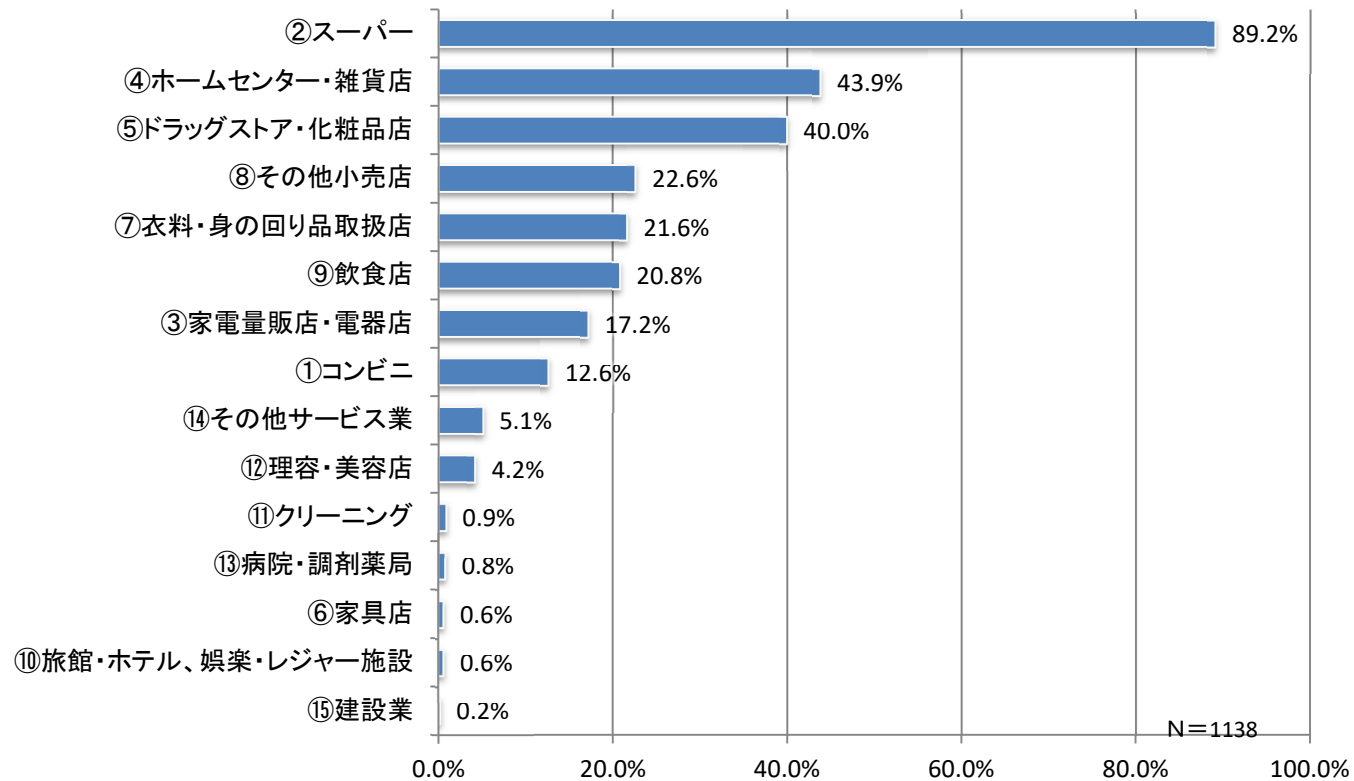
⑤有効回答数 1012件
(回収率 50.6%)

地域	山鹿	鹿北	菊鹿	鹿本	鹿央	不明
配布数	1212	136	197	300	155	
回答数	610	70	105	145	75	7
回収率	50.3	51.5	53.3	48.3	48.4	

3 - (2) 商品券利用店舗

商品券を主に利用した店舗は、「スーパー」が89.2%と突出して高く、次いで「ホームセンター・雑貨店」の43.9%、「ドラッグストア・化粧品店」の40.0%となっている。

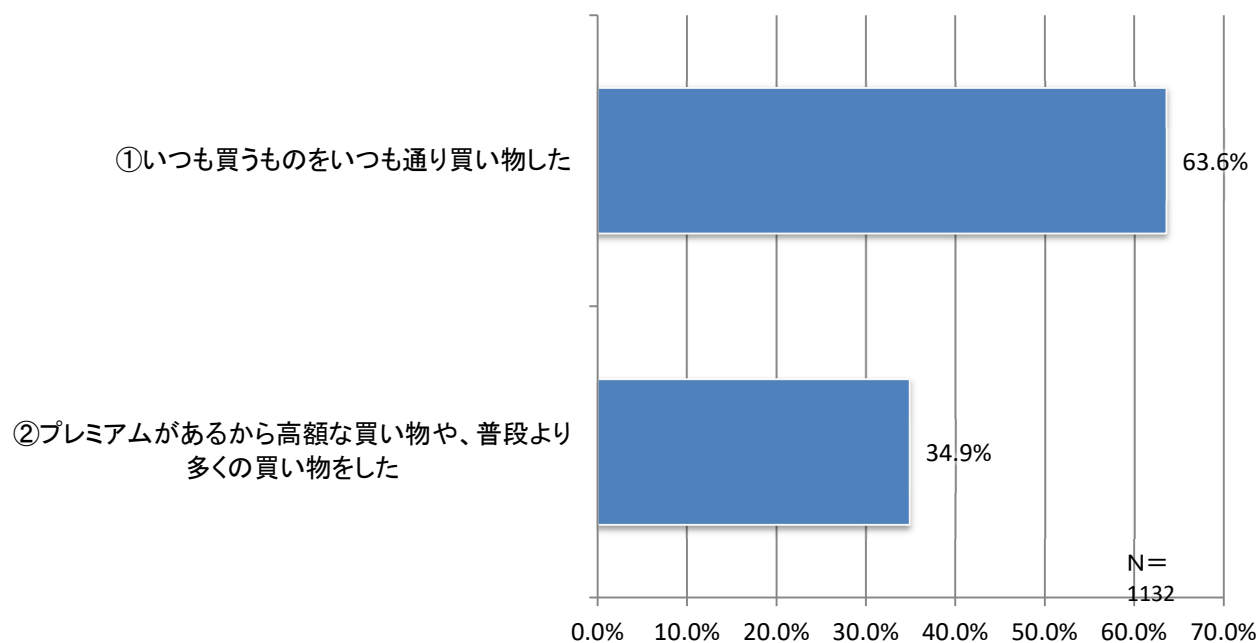
問3 あなたの世帯では、商品券を主にどのようなお店で使ったか。(あてはまるもの全てに○)



3 - (3) 商品券の使途

商品券を使った買い物では、「いつも買うものをいつも通り買い物した」が 63.6%、「プレミアムがあるから高額な買い物や、普段より多くの買い物をした」が 34.9%となった。

問4 あなたの世帯では、商品券を使って、どのような買い物をしたか。(あてはまるもの全てに○)



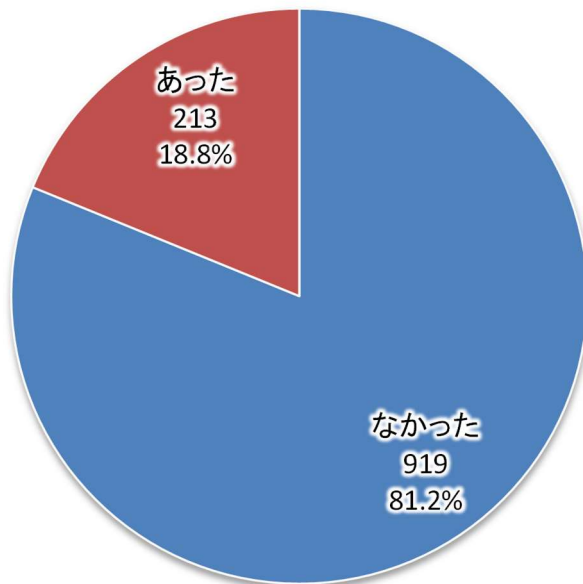
3 - (4) 通常市外で購入する物品の市内での購入 1 / 2

商品券を使った買い物の中で、いつもは市外で買っているものを市内で買ったものが「なかった」の割合が84.5%、

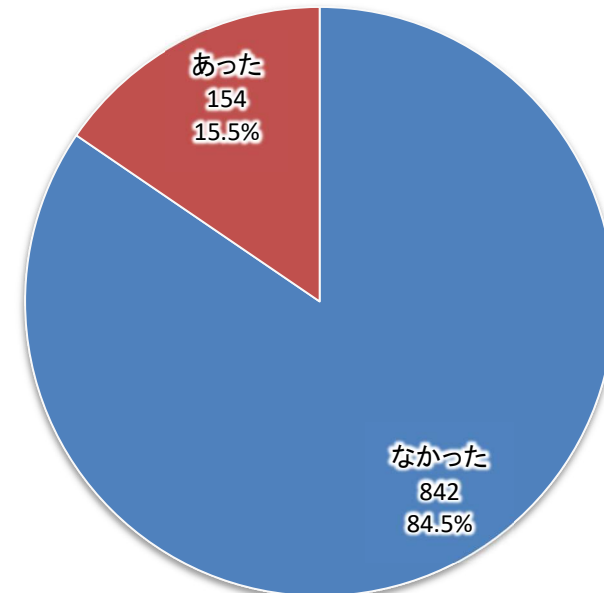
「あった」の割合が15.5%となり、前回と比べて「なかった」割合が3.3%増加した

問5-1 商品券を使った買い物の中で、いつもは市外で買っているものを市内で買ったものはあったか。(1つに○)

前回アンケート



今回アンケート



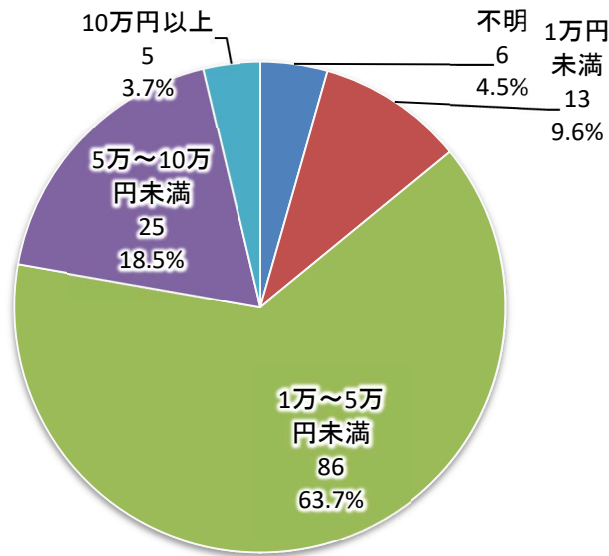
3 - (4) 通常市外で購入する物品の市内での購入 2 / 2

いつもは市外で買っているものを市内で買ったものが「あった」方のおおよその購入額は、「1万～5万円未満」が63.7%と最も高かった。

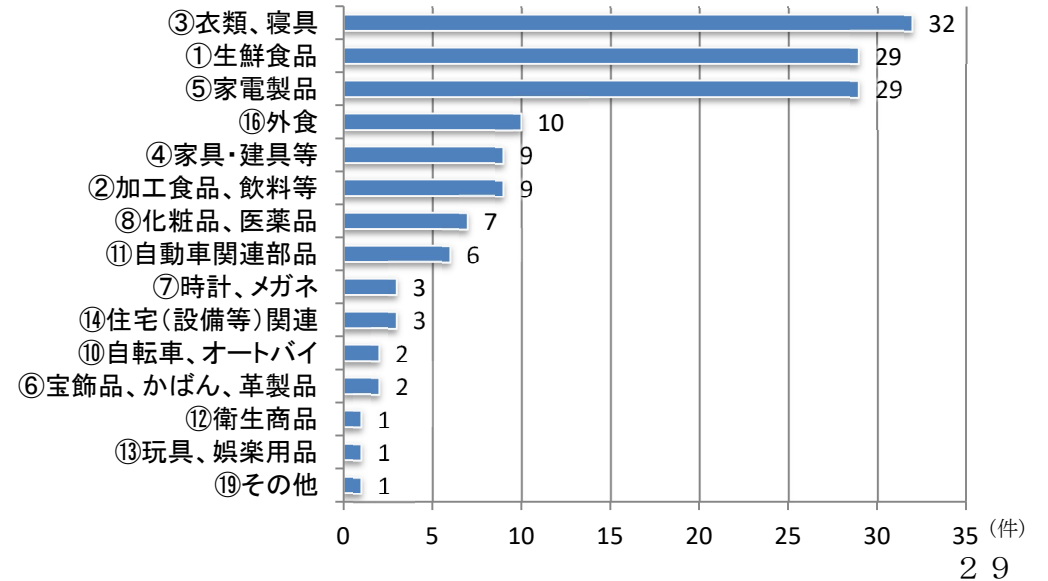
商品種別では、「衣類、寝具」や「生鮮食品」、「家電製品」の回答が多かった。

問5-2 いつもは市外で買っているものを市内で買ったものが「あった」方のおおよその購入額と商品を記入。

購入額



商品種別

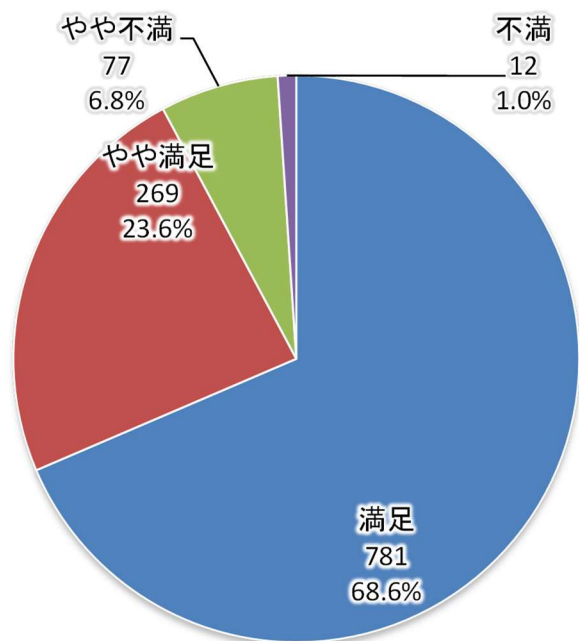


3 - (5) 商品券事業に対する満足度

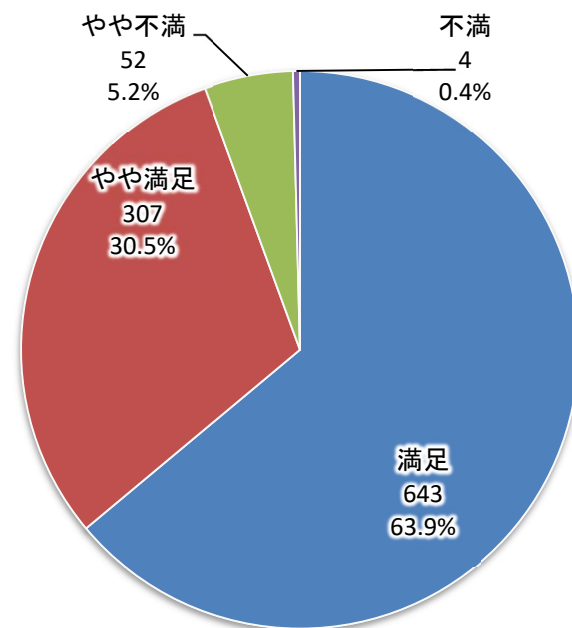
商品券事業に対する満足度に関して、「満足」が63.9%、「やや満足」が30.5%となっており、94.4%は“満足”（「満足」と「やや満足」の合計）との回答となり、前回に比べて2.2%増加した。

問6 今回の商品券事業に対する満足度はどのようなものか。(1つに○)

前回アンケート



今回アンケート



3 - (6) 商品券の発行形態

今後も商品券事業が実施される場合、プレミアム率はどれくらい以上であれば購入するかについては、「40%以上」の割合が61.3%と最も高かったが、それ以下でもあっても購入するとした回答も35.6%あった。

問7 プレミアム率はどれくらい以上であれば購入するか (1つに○)

